

目的 衣服の切かえ線は、衣服の構造的役割と装飾的效果を持ち、着装効果を左右するものである。着装効果は体型への快適なフィット性とともに視覚上の美的効果が重要である。一般デザインにおいては線の錯視効果とか、布地の図案の視覚効果がとりあげられているが、衣服構造の切かえ線による効果については、十分な検討がなされていない。そこで、各種の切かえ線のある衣服設計をもとに、その視覚的效果の検討をこころみた。その中より、水平方向の切かえ線のもつ着装上の視覚効果について報告する。

方法 衣服設計は人台(155-79-61)を用いベーシックなワンピースを製作する。用布は格子入りシーチングを使用し、5種類の水平方向の切かえ線をいれる。人台に着せて写真撮影をする。八つ切りの切画紙を用いて資料を作製する。観察は写真図を一对比較法で標語4つについて評価させる。観察者は女子学生87名である。評価の判定は χ^2 検定による。

結果 衣服における線の効果は、外形線が単純な幾何図形でないから、一般デザインによる線の効果をそのまま応用することには問題がある。切かえ線の位置設定には体型へのフィット性を考慮することが望ましい。切かえ線を7分割に行ない、その分割量を五通りにして、体型の肥瘦効果をみると、等分割は変化が少ないため変化のある分割の方が細くみえる。前面、後面、側面では視覚効果がことなる。身長の高さに関する効果は上方が小さく裾にかけて漸増的に大きくなる分割が背を高くみせる。体型の立体感に関する比較ではウエスト部を中心として上下に変化のある分割が立体的である。等分割はいずれの場合も変化が乏しいといえる。切かえ線の位置により体型の視覚効果がことなる。